

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「イオン初の再エネ100%店舗、大阪府藤井寺市と大阪市福島区に」
- 2) 「ローソン、塗り絵用紙無料で提供 臨時休校に対応」
- 3) 「袋ごと堆肥化できるコーヒーバッグ“STEEPED COFFEE”」

1) 「イオン初の再エネ100%店舗、大阪府藤井寺市と大阪市福島区に」

イオンモールが運営する大阪府藤井寺市岡のイオン藤井寺ショッピングセンターと、イオンリテールが大阪市福島区海老江に28日オープンさせるイオンスタイル海老江の2店舗が、使用電力のすべてを再生可能エネルギーでまかなうことになった。再エネ100%の店舗はイオングループで初めて。

イオン藤井寺ショッピングセンターは前身のイオンモール藤井寺を建て替え、2019年9月にオープンさせた店舗で、総賃貸面積約1万5,000平方メートル。スーパーのイオンフードスタイル藤井寺店を核に、65の専門店が入居している。

屋上に設置した太陽光発電設備で一般家庭約30世帯分の年間使用量に相当する電力を作り、施設内で利用するほか、施設内外の各種設備を遠隔操作して省エネを推進、電力使用量の削減に努める。それでも不足した電力は関西電力が提供する「再エネECOプラン」で再エネ由来のものを調達してまかなう。

関西電力の再エネECOプランで再エネ由来の電力を調達するのに加え、スーパーとしては世界初となるAI（人工知能）を活用した空調エネルギー削減システムを備える。このシステムはイオンリテールが神戸大学、関西電力などと共同で開発したもので、センサーで人の流れや温度、湿度、二酸化炭素濃度などを感知し、最適な空調制御をする。

イオングループは2018年、脱炭素ビジョン2050を策定、2050年までに店舗で排出する二酸化炭素など温室効果ガスをゼロにする目標を打ち出した。日本の大手小売企業として初めて、国際社会の再エネ転換を推進する国際イニシアティブ「RE100」に参加している。

不足した電力を「再エネ」由来のもので関電から提供を受けられるということ、また自社で賄えない分をそのような形で補うことで100%再エネ店舗にできるということを初めて知った。世界初のAI空調システムも取り入れるということだが、それを自分の目で確かめることができないのが残念だ。このシステムを導入することによって従来との違いやどれくらい環境負荷を軽減しているのか是非知りたい。さらに店内で一般のお客さんにもわかるような説明や表示があれば、日々通ううちに何げに目に留まり、意識の中に入っていく、それが商品の選択や行動にもつながっていくのではないかなと思う。

(2020/03/24 財経新聞)

2) 「ローソン、塗り絵用紙無料で提供 臨時休校に対応」

ローソンは店内の複合コピー機で子ども向けの塗り絵用紙を無料で印刷できるサービスをこのほど始めた。自社製品の唐揚げのキャラクター「からあげくん」とサンエックス（東京・千代田）の人気キャラクター「リラックマ」のデザインを用意した。4月13日まで

無料で印刷できる。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で学校の休校が続いていることに対応した。

サービス名は「おえかきローソン」。従来は「からあげクン」の塗り絵用紙を1枚50円で提供していた。「リラックマ」を追加して合計4種類のデザインをそろえた。全国の約1万3700店舗のローソンに設置した複合コピー機で「ローソンプrint」のメニューを選択すると印刷できる。

「おえかきローソン」にあわせて、小学生以下の子どもを対象にしたスタンプラリー企画「おさんぽローソン」を20日に始める。店頭で配布する台紙に、ローソンに来店するごとに1つスタンプを押す。期間は4月9日まで。スタンプが5回分たまるとオリジナルの菓子を1つプレゼントする。

感染症の影響で各社打撃を受けている中、既存の設備を使ってお客様に還元している良いサービスだ。コンビニに限らず、費用をかけて新しい機材を導入せずとも、一工夫で本来の用途以上のサービス提供ができる設備は探せば多くありそうだ。こんな時期なので各社利益度外視で助け合える環境が整ってほしい。

(2020/03/20 日経MJ)

3) 「袋ごと堆肥化できるコーヒーバッグ “STEEPED COFFEE”」

コーヒーを自分で淹れて飲むと、ゴミがたくさん出てしまう。ポッド式のコーヒーマシンを使うと毎回ポッドのゴミが出るし、個包装のドリップ式のコーヒーではプラスチック包装のゴミが出る。コーヒー抽出後の粉自体はコンポスト（堆肥化）可能だが、コーヒー粉に付随して出てしまうゴミはなかなか減らすことが難しかった。

そうした中、ディーバッグの仕組みでコーヒーを淹れ、袋ごと堆肥化できるという商品が登場した。カリフォルニア州サンタクルーズのスタートアップSteeped, Inc.が発明したコーヒーバッグ “STEEPED COFFEE” である。淹れ方は簡単で、紅茶のようにコーヒーバッグを入れたカップにお湯を注ぎ、5分ほど待つだけである。

注目すべき点は、コーヒーバッグのバッグ自体が植物由来の素材でできており、堆肥化可能ということだ。外側のパッケージも堆肥化可能で、有毒なVOCを含まない水性インクで印刷されている。そのため、飲み終わったらコーヒーバッグも外側のパッケージもまとめてコンポストできるのだ。

それだけではない。“STEEPED COFFEE” では、コーヒーの美味しさを保証するために、バッグ内を窒素で充填させて酸化を防ぎ、挽きたての新鮮な味を保っている。コーヒー豆は農家から倫理的に直接調達されるもので、その味は非常に高い評価を得ている。革新的な抽出方法とサステナブルな包装が評価され、同社は2019年、北米最大のコーヒーのトレード・ショーであるスペシャルティ・コーヒー・エキスポで、新製品ベスト賞を獲得した。

Steeped, Inc.によると、リサイクルできないコーヒーポッドは、毎年100億個ずつ埋め立て地に蓄積されており、2009年以降に販売されたコーヒーポッドを並べて置くと地球を130回包み込むのに十分な量になるという。

個包装のコーヒーを使わず、コーヒーマシンも使わず、手持ちのドリッパーとサーバーと堆肥化できるペーパーフィルターを使ってコーヒーをドリップするのが、廃棄物削減のためにはベストなのかもしれない。しかし、忙しい日常の中でサッとコーヒーを飲みたいと

き、いちいち道具を準備してコーヒーをドリップするのは、非現実的と感じる人も多いのではないだろうか。“STEEPED COFFEE”なら、道具や機械を必要とせずに、簡単で質の高いコーヒーを数分で淹れることができる。必要なのはお湯とカップとコーヒーバッグだけ。

環境を思って生活するために、必ずしも日常のありとあらゆるものを変える必要はない。ガラッと生活を変えようとしてすぐに諦めてしまうくらいなら、まずは無理をせずに日常の小さな選択を変えてみるといい。環境と私たちの日常に寄り添う“STEEPED COFFEE”は、その一歩の助けになりそうだ。

日常で何気なく使っているものでも日々の積み重ねで地球に負担をかけている製品は数多くあると言える。既製品に限らず、特に日本は過剰包装だと言われているが、衛生面での懸念もありすぐにすべてを変えるのは難しいだろう。エコ、エコと言われる時代だが、改善しようと思いがちなかなか実行できていないのが事実だ。多くの選択肢の中から地球に優しい素材を選ぶなど身近なところから始めたい。

(2020/03/23 IDEAS FOR GOOD)